

医療の質向上のためにユニークで先進的な取り組みをしている病院を紹介しております。

すべては患者さんのために

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立精神医療センター

院内コンサート、ペタンク大会、なかみや祭、ふれあい動物園等々、患者サービス向上のため、年間を通してさまざまなイベントが行われています。

院内コンサートは例年5月に行われ、日本センチュリー交響楽団が、クラシックを主として聞き覚えのある音楽を演奏してくれます。ペタンク大会は年2回行われ、患者さんや職員のチームがトーナメント方式で優勝を争います。ペタンクは、誰でも楽しめるフランス発祥の球技です。なかみや祭は最も大きなイベントであり、10月に行われます。「なかみや」はこの辺りの地名。職員が患者さんのために寸劇を披露したり、フランクフルト、うどん等の模擬店を運営します。ふれあい動物園は10～11月頃開催されます。移動動物園に来ていただき、ヤギ、ゾウガメ、ヘビたちが患者さんを喜ばせます。直接、動物に触れることができるので、子供も大人も大喜びです。なかみや祭とふれあい動物園は、地域の人たちも参加することができます。

患者サービスの向上に関する基本的な活動としては、患者サービス向上委員会が年に1回開催され、患者サービス向上推進ワーキンググループが毎月活動しています。

こうした中、職員が働きやすい環境を作れば、自ずと患者サービスは向上するであろうという意見に基づき、平成23年度に「創発ワークショップ」がスタートしました。無作為に選ばれた5～7名くらいで構成する6グループの職員が、年に1回、2～3月頃に集まって議論をしながら改善案を出していきます。グループ間の投票などを経て、優秀な提案にはグループ全員に院長賞が授与されます。そして、平成23年度には「病棟クラークの設置」、



24年度には「みんなが着たいユニフォーム」が、実際に採用されました。

また患者サービスの向上には、やはり医療の質が大事であるとの考えに基づき、年に1回2日間、院内研究交流発表大会が開催されています。院内のさまざまな部署から、日頃の取り組みや調査、研究について20演題くらいの発表が行われます。お互いが他部署の活動を知るうえでもよい機会になっています。岩田和彦臨床開発・研修センター長は「今後は、近隣の医療機関、関係機関の方にも来ていただき、広く当院を知っていただきたい」と抱負を述べています。

籠本孝雄院長は「患者サービスの向上には、できるだけ外の目を入れていきたい」と考えています。現在、外部評価を入れたり、大阪府内の人権団体等で構成する療養環境サポーターの方に患者さんの相談に応じてもらったりしています。また、近いうちに大阪弁護士会のブースを院内に設けることも計画しています。

なかみや祭のメイドカフェでは、院長自らメイドに扮しました。コーヒーとともに患者さんに温かい心が届けられました。

(企画部 林 秀行)

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立精神医療センター

大阪府枚方市。許可病床数473床。2015年2月認定第JC2010号（精神科病院（200床以上）（主たる機能））。